

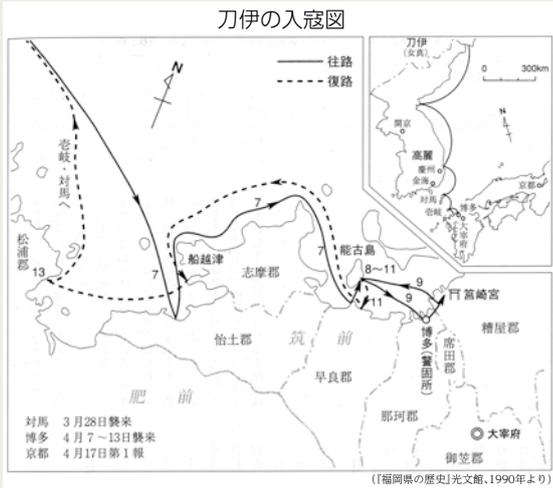
太宰府の文化財

vol. 477

刀伊の入寇 平安時代の外寇事件

昨年、NHKで放送された大河ドラマ「光る君へ」では、最終盤に大宰府が大きく取り上げられました。昨年11月には、まひろ／紫式部役の吉高由里子さん、藤原隆家役の竜屋涼さん、制作統括の内田ゆきさんによるスペシャルトークショーも太宰府で行われました。

「光る君へ」第46回は、隆家が太宰権帥として活躍した「刀伊の入寇」がテーマでした。今回はその事件を紹介します。
寛仁3（1019）年、北部九州は突如として「刀伊賊」の襲来を受けます。「刀伊」とは、中国東北地方東部を中心に居住するツングース系の女真族とされています。その襲来の第一報は4月7日、対馬島司、壹岐島講師僧によってもたらされ



被害地域	殺害	捕虜	牛馬	備考
筑前国 志摩郡 早良郡 怡土郡 能古島	112人 19人 44人 49人 9人	435人 44人 216人 0人	74疋(頭) 19疋(頭) 33疋(頭) 68疋(頭)	
壹岐島	148人	239人		守藤原理忠、殺害される。遺留の人民35人という。
対馬島 上県郡 下県郡	18人 9人 9人	116人 132人 98人		銀穴焼損の被害もあり。そのほか焼失した住宅45棟、切り食された牛馬199疋(頭)とあり。

[注] 「小右記」寛仁3年6月29日条にみえる被害注文による。ただしそこに記された被害総数と殺害・捕虜の合計人数が合致しない箇所もある。

ました。同日にはさらに筑前国怡土郡に襲来、志摩・早良郡を経由して人・物を掠奪し、民宅を焼き払ったといえます。翌8日になると、筑前国那珂郡能古島に移動し、その南方に位置していた大宰府警固所をめぐる攻防となりました。同日13日、今度は肥前国松浦郡に襲来します

が、反撃にあい進攻することができず、遂に帰還したのです（図参照）。大宰府からの報告によればその被害は甚大でした（表参照）。殺傷された人数よりも掠奪された人数の方が多いのが特徴的で、そこには労働力確保の意味合いや中国大陸における奴

婢市場への供給があったと推測されています。

この事件では、大宰権帥・藤原隆家が大いに奮戦しています。藤原実資の日記『小右記』には、隆家自らが太宰府警固所に赴いて合戦に臨んだことが記されています。また歴史物語『大鏡』には、隆家は弓矢のこともよく分らない人物なのでどうなることかと思つたものの、「やまと心かしこくおはする人」（知恵や才能に優れている人）だったので、筑前・肥前・肥後など九国の兵を興し、また府内に仕える兵も加えて戦いに臨んだとあります。当時の大宰府の武力が「九国の兵」（在地住人系武者）と「府内に仕える兵」（府官系武者）によって構成されていたことが分かります。隆家は、府官系武者のことを「府の止んごとなき武者」（大宰府の立派で優れた武者）と呼び、彼らが「刀伊賊」撃退に大きな役割を果たしたと語っています。

公文書館 重松敏彦

太宰府市公式SNSのフォローをお願いします！



エックス



Facebook



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

